

2026 年9月14日 日本テレビ定例会見

《要旨》

1. 営業状況

・放送収入

8 月は「24 時間テレビ」のセールスも堅調で、タイムは前年並みを維持しました。スポットは昨年の特異要因等々もあり前年比 75.6%ではありますが、2 年前の 2024 年度との比較ではエリアを上回り、シェアは 30%台を維持しています。タイムとスポット合わせたトータルは前年同月比 87.7%となりました。上期の放送収入については、「FIFA ワールドカップ 2026」中継での増収や単発番組、レギュラーも堅調だったことから、タイムは前年比 107%前後の増収となる見込みです。

・放送外収入

(桑原取締役執行役員)

9 月 9 日から「ルーヴル美術館展 ルネサンス」が開幕いたしました。今回のテーマ「ルネサンス」に合わせてルネサンス最大の巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチの「女性の肖像」、通称「美しきフェロニエール」が来日しています。ルーヴル所蔵のレオナルド・ダ・ヴィンチの作品が来日するのは 1974 年の「モナ・リザ」以来で 開幕から多くの人に駆けつけていただいています。こちらの美術展は番組と連動してさらにその魅力を伝え、盛り上げていきたいと思っております。ぜひご期待ください。

次に、東野圭吾さんの作品を映画化した「白鳥とコウモリ」は、9 月4日の公開初日から多くの方に見ていただいております。東野さんがおっしゃっていた、「描きたいのは人間なんだ」という言葉通りの作品だと思っております。殺人事件を軸としたミステリーですが、見終わった後に人の優しさに触れる素晴らしい作品です。

2. 質疑

今年の「24 時間テレビ」について

Q. 今年の「24 時間テレビ」の手応えを聞かせてください。

A. 今年も各方面のご協力により「24 時間テレビ 49」を無事に放送することが出来ました。ビデオリサーチの発表になりますが、到達人数が 6,300 万人、24 時間の平均でも深夜も含めて 769 万人と、今年も多くの皆様番組をご覧いただけたことを嬉しく思っています。また、チャリティーにも多くの皆様にご協力いただきました。全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。来年は 50 回目の節目の放送になります。既に準備を始めておりますので、番組、チャリティー共々、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

(岡部取締役常務執行役員)

A. 今年は「わたしの家族の話～あなたは誰を想う?～」をテーマに、多様な「家族のカタチ」や「心のつながり」を描き、「社会のあり方や課題」を見つめ直す番組を目指しました。今回、内村光良さんに初めて総合司会をつとめていただきました。ご自身も体を張った企画に全力で臨んでいただき、また内村さんだからこそ生み出せる温かみとファミリー感で番組全体を優しく包み込み、抜群の安定感で生放送を最後まで引っ張って下さいました。

チャリティーランナーの星野真里さんは、「障がいがある人も、ない人も、誰もが同じように『できた!』と言えることを増やしていきたい」そんな願いを胸に走り切ってくださいました。長女ふうかさんの応援に背中を押されて、走りに力が宿っていくような場面も印象的で家族の強い絆を感じました。

また、北川景子さんが主演を務められたスペシャルドラマ「幸せはある」では、喉頭がんで声を失ったつんく♂さんご夫妻の絆と奇跡の復活劇を描きました。日本人のおよそ 2 人に 1 人ががんにかかるというリスクのある時代だからこそ、この作品を通して支援や予防の大切さを発信できたことは非常に大きな意義があったと感じております。

また、生放送での熱量の高いチャレンジが多くあったのも今年の特徴でした。小学校を舞台に親子 3,000 人が参加した「スクール革命! 24 時間ドミノチャレンジ」、SixTONES のみなさんと世界各地のパフォーマー 130 名による「ボーダーレス LIVE」、内村ファミリーと車いすの少女・芝崎璃海(りみ)さんで挑んだタットダンスは、内村さんも手が震えるほどの緊張感の中、一糸乱れぬ素晴らしいパフォーマンスとなりました。そのほかにも、能登・珠洲市での巨大アート企画、頑張る人にエールを送り続けた「突破応援団」など、挙げればきりがありませんが、大勢の皆様のお力添えあつての「24 時間テレビ」となりました。

5,000 人以上の方が出演した「24 時間テレビ」というのも記憶になく、非常に熱気が伝わってくる放送であったと思います。総合司会の内村光良さんをはじめ、賛同して下さった出演者・関係者の皆様、そして温かいご支援を寄せて下さった視聴者の皆様に心より感謝申し上げます。

(桑原取締役執行役員)

A. 日本テレビ系列局の寄付金の不正行為などを受け、視聴者の皆様に寄付金の使い道をより分かりやすくお伝えしたいという思いで、2024 年の「24 時間テレビ 47」から児童養護支援の目的別募金を始めました。昨年は「マラソン子ども募金」として、児童養護施設に加え母子生活支援施設、子ども食堂などを支援しました。

今年は従来の一般募金に加えて、2つの目的別募金と緊急募金をキャッシュレス募金で実施しました。1 つ目は、チャリティーランナーの星野真里さんが支援を必要とする子どもたちへの寄付を呼びかけた「できた! を増やす子ども募金」。2 つ目は、つんく♂さんの闘病と家族を描いた「24 時間テレビ 49 スペシャルドラマ『幸せはある』」で描かれたがんの研究、啓蒙、患者や家族を支援する「いのちをつなぐ がん募金」。そして、令和 8 年熊本地震の被災者を支援する「熊本地震緊急募金」です。

主な寄付金額は以下になります。(9 月 11 日時点)

- ・「できた！を増やす子ども募金」は4億 1,195 万 1,216 円
- ・「いのちをつなぐ がん募金」は、8,307 万 6,600 円
- ・「熊本地震緊急募金」は、8,966 万 495 円

決済事業者の手数料を除いた全てを、それぞれの目的に対して使用させていただき、どのように寄付が届けられるのかをしっかりとお伝えしていきます。

また、福祉、環境保護、災害復興支援のために使われる従来の一般募金については、キャッシュレス募金も合わせて、現在も寄付を受け付けています。全国各地での対面募金など多岐にわたる募金の集計を行い、総額は 10 月末に発表させていただきます。

Q. 「24 時間テレビ」のチャリティーマラソン放送中に乱入者がありましたが、来年以降に向けた今後の安全対策や取り組みへのご見解をお聞かせください。

(岡部取締役常務執行役員)

A. 「24 時間テレビ」のチャリティーマラソンにおいて、プラカードを持った方の乱入事案がございました。我々が長年チャリティーマラソンを実施する中で最優先にしているのは、沿道の皆様の安全、そしてランナーや番組関係者の安全の確保です。今回あのような形で乱入する方がいましたが、沿道の皆様を含めどなたも怪我をされることなく、無事にしっかりと警備ができたと考えています。生放送の環境下で実施している以上、当然これまでも警備上の想定は重ねてきました。ランナーの周囲には警備を担うガードランナーを配置し、沿道の皆様を守りつつランナーも護衛する体制を整えておりました。来年以降の実施につきましては現時点で決定しておりませんが、今回の事象を真摯に受け止め、仮に今後も継続する場合には、こうした安全対策をより一層徹底して臨みたいと考えています。公道や一般の歩道をお借りして実施している以上、沿道の一般の方々の安全を最優先に運営を行っておりますので、その点につきまして何卒ご理解いただけますと幸いです。

10 月期改編について

Q. 2026 年 10 月期改編の狙いと期待についてお聞かせください。

A. テレビも日本テレビも元気だということを皆様に見ていただきたいので、改編というのは非常にワクワクしますし、期待もしております。先日、初めての試みとして 3 ドラマ揃っての「日テレドラマ SHOWCASE」というキャストの皆さんに参加いただいたイベントを実施し、作品の見どころをお伝え出来たと自負しております。また、ドラマ以外の番組もしっかり準備しておりますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

(岡部取締役常務執行役員)

A. 10 月期ドラマは非常にワクワクできる豪華なラインナップです。

日本テレビに縁の深い「箱根駅伝」を題材にした「俺たちの箱根駅伝」「メリーベリーラブ」「ハイド & シーク 0 秒前の彼女」という自信をもってお届けできる作品を取り揃えました。ドラマイベントの「SHOWCASE」では3ドラマの出演者の皆さんが本当に良い雰囲気、阿吽の呼吸で笑いをとりながらドラマを紹介していく姿を拝見しまして、素晴らしいチームワークで作品作りが行われていることを実感しました。必ず面白い作品をお届けできると、その時に確信に至った次第です。

また、プライム帯では、水曜よる 7 時に「THE FLOOR」(ザ フロア)という世界 30 か国以上で大ヒットしているゲームショーのクイズバラエティーを編成しました。

また、全国放送で 18 年半もの間、日本テレビ系の午後を支えていただいた「情報ライブ ミヤネ屋」の後枠には、新たな報道・情報番組「ニュースto」を読売テレビが制作いたします。金曜レギュラー MC の村上信五さんが注目されるのは言うに及ばずですが、メイン MC の黒木千晶アナウンサーにもご期待いただきたいと思います。関東ではまだ馴染みがないかもしれませんが、報道・政治討論が

ら情報バラエティーまで幅広くこなせる万能型のアナウンサーとして、抜群の信頼を得ております。特に彼女の手腕が高く評価されている番組が、関東では放送されていませんが、「そこまで言って委員会 NP」です。この番組を初めて、関東エリアの日本テレビで、放送いたします。9月26日(土)、午後1時半からと、10月3日(土)午後4時からとなります。ぜひご覧いただいて、「ニュースto」にご期待いただければと思います。

BS4K の WOWOW での無料配信について

Q. BS4K の WOWOW での無料配信について、今後の展望や期待などをお願いします。

A. BS民放5社とWOWOWは、4Kコンテンツを「WOWOWオンデマンド」にて、無料配信する「BS 4K配信サービス」を10月1日より開始することを決定しました。インターネットに接続された4K対応テレビで、無料でご覧いただけます。4Kコンテンツとの接触機会の拡大につながるものと考えておりますのでぜひご覧いただければと思います。また、さらなる利便性の向上を目指し、民放公式テレビ配信サービスの「TVer」から「WOWOWオンデマンド」への遷移・誘導にも取り組んでまいります。BS 日テレからは人気のコンテンツを制作、配信いたします。

(伊佐治健取締役執行役員)

A. 「BS4K 配信サービス」では、各放送局が制作した高画質な 4K コンテンツを、インターネット配信を通じて提供する新たな取り組みとなります。サービス開始日は 10 月 1 日を予定しており、「WOWOW オンデマンド(WOD)」のプラットフォームを活用して配信を開始いたします。なお、TVer の画面上には「WOWOW オンデマンド」への案内リンクやバナー等が設置されます。

Q. WOWOW での「BS4K 配信サービス」において、コンテンツの配信回数や成功の目安となる目標値・指標があれば教えてください。

A. 具体的な数値についてはまだ定まっておりません。以前もこの席で申し上げたかと思いますが、4K コンテンツの可能性は残しておき、いつでもクオリティの高いものを制作できる準備は整えておきたいと考えております。そうした意味では、マーケットのニーズや 4K コンテンツへの期待感を汲み取りながら、それに見合ったものを提供していくのが一番良い形ではないかと考えております。場合によっては、「4K はこんなに素晴らしいのだ」という価値を、マーケットに先回りしてお見せすることも検討しなければならないかもしれませんが、現在のところ具体的な計画があるわけではございません。

ワーナーブラザーズ・ディスカバリーとの提携について

Q. ワーナーブラザーズ・ディスカバリーとの提携についてお伺いします。他社サービスでも同時展開される中、追加料金なしで「HBO Max」を Hulu に組み込む最大の狙いと、提携に至った背景や課題についてお聞かせください。

A. 日本でも多くのグローバルの動画配信プラットフォームが見られています。Hulu も立ち上げてから随分経ちますが、「日テレのコンテンツが見られますよ」ということはもちろんですが、Hulu ならではの強みというか、持ち味、個性、売りといったものが、最近は強い存在感を打ち出すまでには至っていないことから、検討を重ねてきました。

やはりコンテンツを充実させることが一番です。もともと Hulu を立ち上げた当初は海外ドラマのラインナップも豊富で充実していたのですが、次第にそのイメージが薄れてきてしまっていました。そこで「ワーナーさんと一緒に取り組めないか」という話になっていったわけです。

提携の意図としては大きく2つあります。1つ目は、「ハリー・ポッター」をはじめとするワーナーさんの強力なコンテンツがHuluで見られるようになること。2つ目は、「HBO Max」を通じて、日テレのコンテンツが海外へと出ていく動線ができたことです。これはしっかりしたものを作らなければ実現しませんが、大いに活用していきたいと考えています。ドラマコンテンツ(スクリプトedd・アンスクリプトedd問わず)に加え、バラエティーの「GYOKURO STUDIO(ギョクロスタジオ)」というスタジオも社内に立ち上げており、多くの企画を動かしています。こうした企画を世界へ届けるグローバルへの窓口としての期待もあります。大きく分けるとこの2つを狙いとして、今回の取り組みを進めていくところです。

Q. TBSとレジェンダリー・エンターテインメントの提携など、日本のテレビ局が海外のスタジオやプラットフォームと連携を深める動きが続いています。こうした構造は、現在の映像業界における一つの大きな潮流だとお考えでしょうか。その背景についてどのように分析されていますでしょうか。

A. 他社さんのお考えというのはまた別にあるかと思いますが、日本テレビについて申し上げますと、中期経営計画において、「日テレ、開国! Gear up, go global」という方針を打ち出しています。とにかくコンテンツをグローバルに送り出していく、事業を展開していくんだということを明確な目標として掲げておりますので、今回の連携もその目標に向かってアプローチしていく一つの手段だと考えております。

Q. 今後は海外との共同製作なども視野に入れているのでしょうか。また、作品のリリース時期について、具体的にいつ頃を目処にイメージされているかお聞かせください。

A. 共同製作も進めていきたいと考えています。ただ、まだ具体的な企画として動いている段階ではありませんので、「いつ頃」という具体的な時期まで今ここで申し上げることはできません。まずはその前に、日本テレビで現在制作しているコンテンツを出していきたいと考えております。もちろん具体的な共同製作の計画が決まりましたら、こうした会見の場などを通じて改めて発表させていただきたいと思っております。

海外パートナーとの共同制作について

Q. 10月期には韓国CJ ENMとの共同プロジェクト「メリーベリーラブ」が放送されます。春の「10回切って倒れない木はない」に続き、韓国との共同製作ドラマが相次ぐ狙いやターゲット層、またこれまでの作品に対する反響についてお聞かせください。

A. 「韓国のパートナーをあえて選んでいる」ということではなく、これまでは自分たちだけでドラマを企画・制作してきた年月が長かったのですが、やはり外部の方々の知見やモノづくりのノウハウを積極的に取り込んでいきたい、という考えが根底にあります。その取り組みにおける一つのパートナーが韓国のCJ ENMさんです。全体をよく見ていただきますと、これまで組んだことのなかった外部パートナーとの企画を立ち上げたり、これから世に出てくる作品も含め、従来のような「完全自社制作」という形よりも、パートナーと一緒に作っていく「共同製作」の機会が増えていると思います。その開かれた選択肢の一つとして、韓国のパートナーが存在しているという捉え方をさせていただければと思います。

Q. ほかの国とも共同制作というのも視野にいれていますか。

A. 可能性としてはもちろんありますし、実際にご一緒してみて、進んだ形の制作過程でモノづくりをされている点など、多くを学ぶことができました。やはり我々がまだ持っていないノウハウをお持ちだと感じておりますので、韓国に限らず海外のパートナーとの協業の可能性は広がっていますし、国内においても同様です。先ほど申し上げた「グローバル戦略」という視点においても、海外のパートナ

ーと組むことでチャンスが確実に広がるはずですので、海外パートナーとの共同製作にはそうした意味合いも当然含まれていると考えております。

(了)

福田 博之	代表取締役社長執行役員
岡部 智洋	取締役常務執行役員
伊佐治 健	取締役執行役員
桑原 勇蔵	取締役執行役員

※回答者名のないものは、福田社長による回答です。